

第3回北はりま定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

開催日時	平成23年3月29日（火）午後1時00分～2時20分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 3階ホール
出席者	委員14名（欠席：藤本委員、村上委員、笹倉委員、竹内委員）、 オブザーバー5名、事務局4名

- 開会に先立ち、3月11日に発生した東日本大震災での犠牲者の方々への黙とうを行った。

1 西脇市長あいさつ

- 3月11日に発生した東日本大震災では甚大な被害が生じたが、犠牲者・行方不明者も日々増えており、20万人以上の方が避難生活を送られている。犠牲者へのご冥福、また被災された方々へのお見舞いを申し上げたい。災害直後から、にしたか消防の救急隊の派遣をするなど、出来る限りの支援を行ってきたし、これからも続けていきたいと考えている。
- 本日の会議には、中瀬座長をはじめ委員の皆様には、年度末の慌ただしい時期にもかかわらずご出席をいただいたことにお礼を申し上げたい。
- 皆様方にお世話になってきた北はりま定住自立圏共生ビジョンについては、1月18日の懇談会の後、2月にはパブリック・コメントを実施した。ビジョンは、委員の皆様からいただいたご意見やパブコメでのご意見も踏まえ修正を行ったが、本日はその最終案についてご検討をいただき、新年度からは、このビジョンに沿ってそれぞれの分野で取組を進めていきたいと考えている。
- ビジョンの期間は23年度から27年度までの5年間であるが、連携はその期間で終わるということはない。以前から申し上げているとおり、西脇市と多可町とは歴史的にも地理的にも非常に結びつきが強い地域で、両市町が一体となった新しいまちづくりの一步を記すことになるものと思っており、大変意義深いことと感じている。
- 定住自立圏の取組は、医療、福祉、教育、環境など様々な分野で、それぞれの地域が有する地域特性や、地域に特化した機能をフルに活用して一つの生活圈を形成し、必要な生活機能を確保し定住を促進させようとするものだと思っている。
- そのためには、この共生ビジョンに挙がっている項目はもちろんのこと、長い目で見て、西脇市・多可町の重要な課題になっていくようなものについて、市町の枠を取り払っていくことと、もう一つ大事なことは、これまでは違う自治体として動いてきたが、既成概念を取り払い、一つの圏域として取り組めるような展開をしていかないといけないと思っている。
- 項目を挙げて共通の認識のもとで事業を進めるだけではだめだ、と常々担当には言っているが、今あるものを整理しながら、一つの制度として作り上げることが大事だと思っており、住民の皆さんに本当に住んでよかった、と思っただけの地域づくりに取り組んでいきたいと思っている。

- 委員の皆様には、ビジョンの策定に当たって多大なご尽力をいただいたことに重ねてお礼を申し上げますとともに、今後、このビジョンを西脇多可にしっかりと根付かせていきたいと考えているので、引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2 議事（協議事項）

① パブリック・コメントの実施結果について

- 会議資料に基づき、事務局から結果を説明
 - （兵庫県） ・ パブコメ実施計画の2ページの中で、定住自立圏を進めていくに当たり、議会との関係をどのように考えているか、ということがあるが、西脇市議会の議員と、多可町議会の議員が一緒になって議論できるような場を作るのか作らないのかということは、今後の検討課題ということではないかと思う。
 - ・ ビジョン素案の73ページに、今後の推進に向けた取組がうたっているが、提出のあった意見に対する考え方として、その部分を示されるのが良いのではないか。
- （事務局） ・ 確かにそのような考え方が漏れているので、参考にさせていただいて盛り込んでいきたいと思う。

② 北はりま定住自立圏共生ビジョン（案）について

- 会議資料及び別冊ビジョン（案）に基づき、主な変更箇所を説明。
 - （委員） ・ 医療の関係だが、31ページの多可町の役割の中で「中町赤十字病院」となっているが、これはこのままでいいのか。
 - （事務局） ・ その部分は、形成協定の内容を記載しており、9月に両市町の議会で議決をいただいた内容のまま記載している。多可赤十字病院への名称変更は昨年10月1日にあったので、議決をいただいた内容はそのまま据え置いて、それ以外の部分については現在の名称に改めたものである。このままでは分かりにくいので、形成協定の下の部分に（注）としてその旨を記述したい。
 - （委員） ・ 心配なのは、大震災の後なので、記載してある事業がちゃんと進めていけるのかどうかということである。医療関係の経費が削減されていることもあるし、財政難かつ震災で資金が必要な時に、事業がちゃんとやっていけるのかという心配をしている。
 - （委員） ・ 51ページの「捕獲鳥獣有効活用事業」のところで、シカ肉の需給体制整備事業補助金を活用しないということに変更がされているが、具体的にどのように変更になったのか。
 - （多可町） ・ シカ肉加工の施設等については、国の補助制度を使わずに町単独で行っていくが、県と協議をする中で、県でも北播磨における有害鳥獣対策を重要と考えておられるので、年度途中でも県補助制度を活用できるように

あれば活用していきたい。ただ、当初予算の段階では町の一般財源で対応するということである。

(兵庫県) ・ もともと、定住自立圏共生ビジョンの事業実施に当たっては、特別交付税が財源として確保されている。その分に関しては、震災があったから総額を減らす、ということは国も言えないだろう。このビジョンに記載されている事業の財源として確保されている分については、変わらないだろうと思っている。

・ ただ、それ以外の分、一般的に市町村に色んな形で財政支援として交付される分については、被災地に回ると考えておかなければならないだろう。また、国全体の経済の伸びが停滞し、全国的に税収が落ち込むこと、また国全体の予算が被災地に集中的に投入されることにより、交付税の総額は減るということにならざるを得ないと思う。被災地以外の市町村については、来年度以降国の財政支援が縮むということを考えておかなければならない。

(座長) ・ それでは、共生ビジョン案について、提案のとおりご承認いただくということでいいだろうか。

⇒ 委員賛同。承認

(座長) ・ では、この懇談会で共生ビジョンの承認を行ったので、今後必要な対応については両市町で行っていただくようお願いしたい。

・ なお、本日は予定していた最後の会議であり、今後は圏域全体で様々な課題に取り組んでいくこととなる。委員の皆様には、これまで3回の懇談会にご出席をいただいたことにお礼を申し上げます。なお、任期はあと1年ということなので、引き続きよろしくようお願いしたい。

・ 北はりま定住自立圏の将来像「うるおいとやすらぎを感じる暮らし豊かな北播磨の郷(さと)」を実現していくためには、行政のみならず、委員の皆様をはじめ、地域の方々のご協力や取組が重要となってくる。

・ せっかくの機会でもあるので、委員の皆様から一言ずつ、西脇市と多可町のまちづくりについて、ご意見や今後の取組など、一言ずつご意見をお願いしたい。

(委員) ・ 医療の分野についてはほとんどのことが網羅してあるので、特に言うことはないが、医師会でも問題となっているのは、医師確保、スタッフの確保、それと医療情報のIT化、これは23年度から取り組んでいくが、少ないマンパワーの中で有効に医療を進めていく上では、医療情報のIT化は避けて通れず、必要不可欠なものであると思う。

・ これらのことに対する色んな事業が組んであるので大変ありがたいが、西脇市と多可町だけでなく、それ以外の病院との医療連携もあるので、少し範囲が狭くなってしまうのかなという気はする。

・ 医師確保、医療情報のIT化、休日急患センターの役割分担など、このあたりの大事なことが全て入っているので、特に言うことはないが、範

圏が西脇多可に限定されてしまうと、このご時世には合わないとも思うので、もっと広い範囲での取組も必要になってくると思っている。

(委員) ・ 私たちは、西脇市内での医療にかかわる団体と交流をさせていただき、連携をしながら活動を進めてきた。

- ・ 共生ビジョンの策定に当たって、多可町との連携も進めていければいいなどと思っているし、医療従事者ではなく住民として出来ることから、小児医療の問題だけではなく、地域医療全体を考えていけるような活動を進めていきたいと思っている

(委員) ・ 教育文化のジャンルになると範囲が大変広がるが、特に文化、スポーツについて、広く住民の皆様の願いが実現できるものと個人的には大変喜んでいる。多可町にも立派な施設があり、西脇市にも立派な施設があるが、お互いに長短あり、それをうまく利用すれば文化、スポーツ活動の範囲が広がるのではないかとと思っている。

- ・ 西脇と多可とがお互いに連携を取りながら、公共施設の相互活用を図っていくために、西脇多可の連絡協議会が早く設置され、このようなことを協議できればと思う。また、その内容を住民に発信し行き渡らせることができれば素晴らしいことだと思う。

- ・ 西脇多可で交流事業として開催する文化、スポーツ事業があるが、これについても、一緒になって考えたらどうかと思う。マラソン大会など、地域を通して交流ができればと考えている。連絡協議会の場を確実に作っていただけて進めていただきたいと思う。

(委員) ・ 3月2日・3日に、初めて西脇で播州織総合素材展を開催したが、かなりの規模の展示会ができたと思っており、2日間で、1,400名もの方に来場いただいた。東京では15回開催したが、2日間で7～800人程度の来場者であり、これまでは東京、大阪、香港などずっと外で開催してきたので、地元の方々に新しい播州織をお見せする機会がなかったが、今回、ファッションショーを含めて、たくさんの方に新しい播州織に触れていただいたと思う。本当に身動きが出来ないくらいの方が来ていただき、嬉しく思っている。

- ・ 現在は、西脇商工会議所と、多可町商工会の接点がないが、できるだけ早く一緒になってイベントなどをできればとも思っている。

(委員) ・ 前回の会議で質問をした62ページの一般県道中安田市原線バイパス整備促進事業について、「救急搬送体制の強化や産業振興をはじめ、圏域の活性化に必要不可欠となる主要道路」というように修正をしていただき、良かったと思っている。

- ・ 今後の推進方策についても73ページに詳しく記載をされており、大変良いことだと思っている。

(委員) ・ 農業部門では、あと5年もすれば農業をする人がいなくなってしまうと常々言ってきたが、46ページの「担い手育成対策事業」のところで集

団営農に取り組む姿勢を見せていただいている。

- それをさらに強化していただき、西脇多可ならではの地域ブランド作物を作っていく中で、それをお金に変えないといけないので、農産物直売所でそれぞれ農家が持ち寄って売るという形に持っていけば、西脇市、多可町の農業がすたれることなく、発展していくのではないかと期待をしている。

(委員) • 先日、加東農林事務所からシカ肉のPRのためイベントに出てほしいとの依頼があったが、出ようと決めた直後に地震があり、こんな時期にイベントをするのはどうかということで事務所も困っておられた。

- しかし、みんなが落ち込んでいても仕方がないので、イベントに行くこととしたが、このような活動を通じて地域の活性化を図りながら、自分たちが頑張って応援をできればとも思った。今後も、地元の食材を利用しながら頑張って取組を進めていきたいと思っている。

(委員) • 地域公共交通ネットワークについて、資料を見させていただいたが、非常にいいことだと思っている。

- 今後、少子高齢化が進んでいく中で公共交通の役割が大きくなっていくものと思っているが、事業所としても、これまでの経験も踏まえながら協力をしていきたいと思っている。

(委員) • 市民農園という言葉が出ているが、こういうものやアンテナショップを利用していくことにより、都市との交流の範囲が広がっていくのではないだろうか。これらの資源をうまく活用していくために、最大限努力をしていきたいと思っている。

(委員) • 圏域観光交流連携推進事業ということで予算も計上してもらっており、ありがたいと感じている。

- 多可町は誕生してまだ日が浅いので、知名度が低く多くの方がご存じない。西脇市の北に位置していると説明しているが、今後西脇市と一緒に観光の振興に取り組んでいけるということに非常にメリットを感じている。
- 当地域は自然は豊かだが、京都や奈良のような大観光地でもない。ただ、生活そのものが文化として観光資源になりうるという時代にもなってきている。阪神間や姫路などから観光客にお越しをいただいているが、先駆者である田園空間博物館は早くから多可町も含めた取組をされており、お客様を多可町に呼び込んでいただいていることに感謝をしたい。
- 観光を一つの産業としてとらえていけるよう、何とか地元にお金が落ちしていただけるような観光協会を目指していきたいので、今後ともよろしく願いたい。

(委員) • 12 ページの一番下を見ると、この圏域内の商品販売額が 10 年間に 3 分の 2 に落ちており、これは厳しい状況だと思った。

- 神戸のアンテナショップにも何回か行ったが、この震災後は非常に売れ行きが悪いということである。日本全体が沈んでいる、という印象も受

けた。

- ・ 田園空間博物館は道の駅も兼ねて運営をしているが、農業の問題なども含め、新しい展開をどこかで打ち出していくべきなのかなと考えている。また、北はりまの人々の元気が出るよう、活動に力を入れていきたいと思っており、現状を悲観せずに、常に新しいことを考えていきたいと思っている。

- (委員)
- ・ 高齢者の移動という点において、八千代区にもコミバスが走っているが、実際はなかなか利用しにくいということもあるので、2～3人で病院などに行く場合、小回りのきく運行方法を考えてもらえればとも思っている。
 - ・ 人口が少なくなればなるほど学校の統廃合の問題が出てくる。できれば小さい学校でも維持して行ってほしいというのが私たちの思いである。高校についても、少子化になれば高校が減るという懸念もあるため、今後考えていただければと思う。
 - ・ また、大震災が起き、避難場所のことも考えないといけないが、当地域では、洪水が一番大きい災害になると思う。大体各集落の公民館や集会所が避難場所になっているが、川のそばや川と同じような高さにある所もあるので、もう一度確認をしてはどうかと思う。
 - ・ 斎場については、やすらぎ苑の利用が多くなっており、このビジョンにも増設のことが記載されているのでありがたいと思っている。

- (委員)
- ・ 木質バイオマスエネルギーについて、町の委託を受けてチップ工場を運営しているが、ボイラー3基の稼働率は3割5分程度で、生産過剰である。一番望んでいるのは、公共施設へのチップボイラーの導入であり、西脇市へとエリアが広がると、その可能性がさらに高まるものと期待しており、公共施設への導入をお願いしたいと考えている。
 - ・ 西脇市森林組合が解散し、この8月から正式に北はりま森林組合として地域拡大方式で合流をしたが、間伐の促進などを中心として、西脇多可一体となって森林の管理を行っていくのでよろしくをお願いしたい。

- (座長)
- ・ 最近は播磨地方に縁があり、加古川の流域協議会での活動や、加東市や稲美町での活動など、播磨での活動が非常に多い。播磨の人たちからはパワーを感じている。
 - ・ 地域間競争の時代に入らる中で、この地域でよその地域より優れているところは何か、観光客をどう呼び込んでいくのか、良さをどう訴えていくのか。昔のような物見遊山の観光ではなく産業観光や医療観光など、色々な分野の方々が集まる新しい観光というものをどう作り上げていくのかということを考えないといけないが、皆様のご発言を重ねてみたら、新しい21世紀の地域観光モデルが生まれてくるのではないかと、とも思っている。

3 その他

(1) 今後の予定について（事務局）

- 本日も協議いただいた共生ビジョンについては、正式に決定する事務手続きを事務局で進めていき、4月からビジョンに示した事業について順次取り組んでいく。
- 委員の皆様への任期については2年としている。具体的に来年度いつ会議を開催するかはまだ決めていないが、事業の取組状況等についての報告や、またビジョンに大幅な変更が必要となる場合は、この懇談会の場でご協議をいただきたいと考えている。
- 地域住民の皆様への周知については、広報等で積極的に行っていきたい。

4 多可町長あいさつ

- ビジョンの策定に当たっては、中瀬座長をはじめ委員の皆様方から様々な意見をいただき、おかげで策定ができたものと感謝をしている。
- 定住自立圏共生ビジョンというものが何なのか分かりにくかったが、西脇と多可で一緒に取り組む圏域作戦、と読みかえると理解できた気がする。
- 委員の皆様への任期は2年であり、共生ビジョンの効力は5年となっているが、進捗についての報告とご意見をいただく機会を設けなければいけないと思っている。また、住民の皆様への周知についてもしっかりと行っていきたい。
- 財政面についてのご意見もいただいたが、震災復興の予算にかなり財源を持っていかねばならないという状況の中で、ビジョンの実行に当たっても、選択と集中という考え方が必要になってくるとも思っている。今回の東日本大震災は、有史以来最大の惨事だと認識しているが、西日本が東日本を救わなければならないという思い、また、人命が政策に優先するとの思いも持っており、みんなで東日本を支えていけると願っている。
- 長期間、ビジョン策定に当たっては本当にお世話になったことに、重ねてお礼を申し上げたい。